

やぐわえ

創立七十五周年記念号



東京都神道青年会 創立七十五周年記念事業趣旨

当会は、戦後の混乱が続く昭和二十四年「自己研鑽と神社神道の興隆を期す」という目標を掲げてより、令和六年に創立七十五周年を迎えます。

令和の御代も五年を数え、斯界を取り巻く環境や現代社会の変化は大幅に加速度的であり、十年一昔から一年一昔となり、その時代の進みは更にその速さを高めている実情にあります。日本が固有の国土の中で育んできた文化や思想のあり様も国際化の目まぐるしい進展や多様性を極める社会の中で、様々な影響を受けています。そして、文化や思想への影響に留まらず、国際情勢の不安定さが齎す脅威は領土と国民の生命にその手を伸ばそうとしています。

今、日本は発会当時の混乱とは異なれども、多くの変化や脅威に晒されています。現在の日本に生きる者には、これらの脅威や問題に真剣に向き合うことが望まれます。当会は国体の護持と日本文化の継承の担い手として、先輩諸賢より精神を受け継ぎ、今日まで伝統を紡いでまいりました。この難局にあつては、日本人そして青年神職としての矜持を持って、今に向き合い活動をするために、この節目に臨みたく存じます。

そこで、周年の佳節に際し、当会の歴史を振り返り、次代へ想いを引き継ぎ、時代に即した行動を体現するべく、各種記念事業を左記の通り計画・実施いたす予定であります。

会員一同が一致団結し努めることはもとより、先輩諸賢また関係諸団体の御教導御協力もいただきながら諸活動に邁進してまいる所存です。

関係各位におかれましては、何卒御理解をいただき、本事業の実現と完遂のために格別のお力添えを頂戴いたしたく伏してお願い申し上げます。

東京都神道青年会 会長 篠 泰比呂

記

記念事業概要

- 一、記念大会の開催（物故者慰霊祭・記念式典・記念講演会・記念祝賀会）
- 一、神宮奉告参拝の実施
- 一、勤労奉仕の実施
- 一、神道行法鍊成研修会の開催
- 一、震災及び自然災害殉難者慰霊関連事業の実施
- 一、英霊顕彰関連事業の実施
- 一、教化育成関連事業の実施
- 一、各種記念事業の実施
- 一、「やくわえ」記念号の発行
- 一、都神青ホームページ更新
- 一、その他

以上

（令和五年度 総会資料より）

やくわえ

創立七十五周年記念号

目次

式辞・祝辞	2
創立七十五周年記念大会	6
神宮奉告参拝	10
都神青ホームページ更新	11
教化資材	12
勤労奉仕	13
神道行法錬成研修会	14
なつやすみ子供神社体験学習	15
都内戦災震災殉難者慰霊祭並びに靖國神社参拝	18
TSS懇親事業	20
御朱印展―東京の神社御朱印大集結―	21
国内慰霊祭	25
協賛者名簿	29
周年記念事業総括	35
編集委員	36

式 辞



東京都神道青年会 会長

篠 泰比呂

皇紀二六八四年の金秋に、畏くも天皇陛下の大御代を寿ぎ奉り、皇室の弥栄と神宮はじめ各御社頭の御隆昌、日本国の繁栄を皆様と共に祈り致すものであります。そして、本年の四月八日、神宮が御聴許を賜り、国家無双の大嘗たる第六十三回神宮式年遷宮の御準備が恙無く進められておりますこと大慶に存じ上げます。

永き伝統を誇る東京都神道青年会の創立七十五年の節目に当たり、本日記念大会を開催致しましたところ、御多用の中にも係わりませず多数の御来賓、東京都神社庁関係各位の御臨席を賜ると共に、常日頃御指導御鞭撻を頂いております先輩諸賢、神道青年全国協議会役員の方々並びに神青協一都七県協議会、全国単位会の同志に御参集頂きまして、当会周年を祝えますことは誠に有難く、謹んで厚く御礼申し上げます。また、本周年事業に際しまして関係各位より多大なるお力添えを頂いておりますこと、併せて深甚なる感謝の意を表する次第であります。

さて、当会の歴史を顧み、創立当初に思いを致しますと、筆舌に尽くし難い時代背景と先人の御苦勞を窺い知ることが出来ます。先の大戦後の混乱と混沌が渦巻く昭和二十四年の秋、焦土と瓦礫の中、祖国再建と神社神道の興隆を目指し、赤誠をもって日夜分かたぬ御努力を尽くし、それぞれ活躍しておられた都内青年神職各会十二団体が國學院大學の旧祭式教場二階小講堂に集結し、「民族精神の基盤なる神社信仰の本義に

徹し、国家再興のため強力なる運動を展開せん」を創立の精神として同志の結束を図り「東京都神道青年協議会」が創立されました。先輩諸賢は通信や交通は疎か衣食住に事欠く中において東奔西走され、創立翌年の昭和二十五年一月には創立の奉告に神宮参拝を行い、同年七月には武蔵御岳山において二泊三日の禊祓成を開催、十二月には渋谷の駅前にて神宮式年遷宮奉賛の街頭演説を行うなど積極果敢なる活動を展開されたのであります。時を経て、昭和三十一年の改組に伴い名称を現在の「東京都神道青年会」に改め、新たに都内青年神職が一丸となって今日に至るまで歩みを進め、七十五年間の歴史を紡いでまいりました。これも偏に努力と苦勞を惜しむことなく活動に邁進された先輩諸賢のお陰によることを決して忘れてはならず、改めて茲に感謝と敬意を表するものであります。

本年度令和の御代は六年を迎え、日々我が国を取り巻く状況は内外問わず刻々と変化し続けています。令和二年頃より数年間に及ぶ疫禍の影響は生活の様式や従前当然に思われていた感覚の基盤を揺るがせ、斯界においても新たに火急の対応が求められるに至りました。また、大東亜戦争終戦八十年を翌年に控える年にあっても、世界では戦禍は絶えず、我が国においても有事の可能性は日を追う毎に高まっています。そして、幾重にも発災する地震をはじめとする天災の脅威や規模は年々大きくなっているように感じます。

そのような時局にあって、日本人はどのように生きるべきなのであるでしょうか。

時代を経る毎に人間は叡智をもって進歩の速度を上げ、より良い世界を求めて様々な技術を発展させてきました。他方、人間自体に目を向けると、生み出した技術は加速度的に進歩し発展している一方で、人間はそれら技術に見合う形に成長ができていないのか疑問を感じざるを得ません。

人間の成長速度に適正な速さが存在するのかは分かりませんが、少な

くとも昨今の著しい技術進歩に人間は真に適応できていないように思えてなりません。現在の世の様を見るにつけ、何か人としての大切な感性や今まで培い蓄積されてきた数多の重要なものを取捨選択する暇もなく落としてしまっているような懸念を覚えます。

今を生きる者は、決して単一では存在し得ません。我々は不意に単独に生じた存在ではなく、連綿と繋がってきた命の絆を継承し、今に存在しています。言い換えれば、今を生きる者は今を預かる存在であるといえるのではないでしょうか。故に、我々は幾星霜の時を経て先人が守り伝えようとした日本の「こころ」を胸に抱きつつ、遥か彼方の将来を生きる雲孫を想い、今を大切に且つ丁寧に生きることが義務であると考えます。そのためには、様々な変化に流されることなく、流れを見極めつつ、本質を見失うことなく力強くも慎重に行く先を見定め前進することができる胆力が必要です。時代に飲まれることなく、時代に短絡的に迎合することもせず、時代を正しく築く立場に身を置くことができるよう、会員同士切磋琢磨し、青年神職の矜持を持って斯道興隆に邁進してまいりたく存じます。そして、先輩・同輩・後輩の別なく仁義を欠かず、礼節を重んじ一致団結し榮えある未来に向け邁進することを切望する次第であります。

東京都神道青年会は、創立の理念を堅持し、今日に至るまで各時代において、時の「現役」を預かり、様々な苦難と困難を乗り越えて、至誠の襟を今に託してくださった先人の想いを引継ぎ、次代へより良い形でこれを渡せるよう、今後更に価値ある前進を誓うものであります。そのためにも、本日御臨席御参集の皆様はもとより、常日頃より御支援頂いております東京都神社庁関係各位並びに都内神職の皆様、更には神道青年全国協議会及び関東地区七県をはじめとする全国単位会同志の皆様方の御指導御鞭撻、そして御交誼を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

本年は年初より地震災害が頻発し、輪を掛けて豪雨をはじめとする天

災が起こり、多くの方々が被害に遭われましたことに、謹んでお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興を御祈念申し上げます。

結びに、皆々様の御奉仕神社の弥栄と、各位の御健勝御多幸を御祈念申し上げます、東京都神道青年会創立七十五年記念式典の式辞と致します。

(令和六年十月二十八日 創立七十五周年記念式典に於ける式辞)

祝 辞



東京都神社庁 庁長

小野 貴嗣

東京都神道青年会が創立七十五周年の佳節を迎えられましたことを同胞と共に喜び申し上げます。そして素晴らしい活動を継続的に展開なされてこれましたことに心から敬意を表するものであります。

昨年の四月から大鳥居良人前会長は神道青年全国協議会の新会長になられ、そして東京都を引き継がれたのが、篠 泰比呂新会長。新執行部が直に神青協の周年事業を支えながら、自分達都神青の周年事業を考え、推進して行くという難問に取り組むのは、都神青の宿命とはいえ、大変な意いと活力が要ります。その難題に見事に取り組んでいる神青会には頭が下がります。

周年事業は大変さを伴いますが、事業への使命感と連帯力が事業の充実度や成果に繋がり、団結力に繋がっていくと確信しています。この四月にご聴許を賜り、第六十三回式年遷宮のご準備が始まっています。

大宮司様の下で遷宮完遂の為に神職が一人一人の責任において取り組み、全氏子崇敬者の奉賛をもって進める覚悟が求められています。

奉賛活動の中核となるのが、教化広報活動にて日本の心や美風を紹介・体感・共感させるべく教化プログラムの具体的開発が求められています。この教化視点は都市化・孤立化の中で自分を取り戻し、安らぎを得たり、能動的行動を喚起するものです。

都会で孤立しないための防御手段の変化が、社会生活を変えて行く現

代の風潮を捉えていかねばなりません。

一方 頻発する地震災害・自然災害を目の当たりにしたこの年の経験から、町の対策・区市の対策の連動化・東京都の行政との繋がり方の大切さは一入です。

神社と氏子の連動対策作りの拠点は神社の役割であります。きちんと共通認識を持つことが一番大切なことであり、祭りや神輿で培われたネットワークをどう活用するか、区議・市議・都議・代議士との連携と警察・消防機関との連携も欠かせない。

応援されることに対応できる体勢を整え、各ポジションへの助言を効率的に実現してゆくにはこうすべきという具体的な行動の執り方等 事前に対処することを時系列・内容別に分けて準備する必要があると思います。

私たちが直面している各種の喫緊の課題を挙げてきましたが、共通するものが見えて来ています。

これをテーマごとに構図を確立し、基点を明らかに持ち分けて行動を起せるならば、即応時間が最小限で運動・活動が実を結ぶものと思うのであります。

神青会の限らない発展を祈り上げつつ、継続可能な新たな活動に発展して行く準備を積み上げて頂きたいことを一心に祈っています。

(令和六年十月二十八日 創立七十五周年記念式典に於ける祝辞)

祝 辞



神道青年全国協議会 会長

大鳥居 良人

東京都神道青年会におかれましては、創立七十五周年の佳節を迎えられ、記念大会が盛大に開催されますこと心よりお慶び申し上げます。

日頃より神道青年全国協議会の諸活動に格別なる御理解御協力をいただき、深く感謝申し上げます。中でも本年四月に開催致しました神道青年全国協議会創立七十五周年記念大会に際しましては、創立以来培われてきた結束力と積み重ねられてきた経験を発揮され、無事成功裡に導いていただきましたことは誠に有り難く、重ねて御礼申し上げます。

貴会は終戦間もない昭和二十四年、占領という曾て経験したことのない状況下で困窮と共に人心が荒廃し、神社の存続すらも危ぶまれる中、崇高なる精神と熱き情熱を持った先輩諸賢が困難に屈することなく結集し、発足されました。爾来時宜を得た様々な活動を積極果敢に展開され、広く発信されておりますことに深甚なる敬意を表します。

古くから神社は祭礼を通じて地域社会の中心という役割を担い、そして氏子崇敬者に支えられ護持運営がなされてきました。しかし時代が大きく変わる中、各地域で過疎化や少子高齢化などの影響により共同体の存続が困難となり、危機的な状況を迎えています。そしてそれらは人間関係の希薄化、氏子意識や共同体意識の低下などの問題を抱える都市部においても無縁ではありません。そのような中で人と人、神社と地域の繋がりを強くするためにはどうしていくべきか、我々はこれまで以上に

考え行動していかなくてはなりません。

本年四月、神宮におかれましては天皇陛下の御聴許を拝され、第六十三回神宮式年遷宮の準備が本格的に進められることとなりました。御遷宮は陛下の思召を体して遂行される正に国家の重儀であり、世情と共に人々の価値観や意識が変わる中にある国民総奉賛の内に挙行されるべく、我々はその意義を広め長期的な活動を展開していく必要があります。全国でも有数の発信力を持ち、時代の最先端をいく東京都の青年神職こそがその活動を力強く牽引されていくことを御期待申し上げます。

そしてそれらの活動を強力に展開するため、未来に向けて今改めて我々青年神職は一つにならなければなりません。一つになるということは、一人一人が同じになるということではありません。考えや方法手段、信念などはもちろんそれぞれに異なると思いますが、日々の奉仕の中で青年神職として常に考え、それらの違いを受け入れ、相互に切磋琢磨し、同じ方向に向かって歩みを進めていく、それが大同団結であります。

帝都東京の誇りを胸に、時代の変化に対応しつつも決して本質的なことを見失わず活動に取り組むその姿勢が、全国津々浦々に波及し、各地で活動する青年神職が触発され斯界の発展に繋がることを切に願います。

東京都神道青年会の益々の御発展と、会員各位の更なる御活躍を御祈念申し上げ、祝辞とさせていただきます。

(令和六年十月二十八日 創立七十五周年記念式典に於ける祝辞)

創立七十五周年記念大会

令和六年十月二十八日 於 東京ドームホテル

令和六年に当会は創立七十五周年の佳節を迎え、十月二十八日、東京ドームホテルに於いて「創立七十五周年記念大会」が執り行われ、来賓・都神社庁関係各位、神青協関係、会員合わせ二百五十名を超える参加者が集まった。

この日を迎えるにあたり様々な準備を行い、前日も会場にて細部の最終確認を行った。

当日、都神青会員は午前十時に集合し、集合写真撮影の後、各担当部署に分かれて最終の準備、司会のリハーサル、物故者慰霊祭の習礼、映像の確認など細部まで確認を行った。



参加者

篠泰比呂・内海通人・服部佑子
森田尚久・大鳥居良人・山口祐樹
平岡好仁・高島俊亮・渡邊輝比古
榎本光孝・鶴岡慶子・田村仁志
千葉布子・山中聡一郎・佐和橋義之
豊田芳亮・椿拓磨・毛利勇人
佐佐木照展・牧田笙・齋藤剛
田村康晃・佐々木義修・本橋知子
藤ヶ崎智栄・田部景子・渡邊喬弘
園田治穂・篠原萌花・石山寿雄
赤尾優・小白川宮貴・島岡昇平
馬場慶太郎・春日博仁・品川明日香
乙黒美緒・黒田裕香・今井健琉

野澤晃司・猿渡諒・前村達彦
中川岳士・杉本天・渡辺大祐
森田義崇・河野浩治・猿渡惇
山口直敬・齋藤成惟・富田剛弘
大鳥居瑛子・細野喜久・宮崎仁嗣
瀧亮子・池田智彦・石川明寿
春日貴仁・石倉義浩・田村康陽
金鑽和樹・安藤和貴・鈴木淑人
鶴岡涼・前田友輝・黒田由美

(順不同・敬称略)

時間	行事	次第
10:00	関係者集合	挨拶・諸注意・説明
10:20	準備開始	記念写真 物品搬入 慰霊祭会場準備 各所準備確認
10:30	式典・講演・祝賀会 リハーサル	
11:30	慰霊祭習礼	
12:00	各部署集合	誘導・案内開始
12:30	慰霊祭会場最終確認	
12:50	物故者慰霊祭受付	警備・誘導開始
13:00	入場案内	
13:40	物故者慰霊祭終了	参列者誘導
14:00	記念式典受付開始	
15:00	記念式典開式	講師到着
16:00	記念式典閉式	
16:30	記念講演開演	
17:30	記念講演閉演	
17:35	記念祝賀会案内	
17:50	祝賀会開宴案内	
18:00	記念祝賀会開宴	
20:00	記念祝賀会閉宴	議員・貴賓退出 来賓退出 参会者退出
20:30	集合・解散	

周年記念大会 物故者慰霊祭 祭詞

是の東京ドームホテルの美し処を嚴の齋庭と秋ひ清めて忌竹刺立て、繩引廻らし神籬高く招ぎ奉り坐せ奉る掛けまくも畏き御由縁深き都内神職「十九」柱の命等の御霊の御前に齋主東京都神道青年会議長森田尚久謹み敬ひて白さく

阿波礼汝命等の御功績を偲び奉れば先づ御戦の後人の心惑ひ乱るる時に惟神の正道を弥広めに広め弥興しに興して美しき皇御國の御姿を取り戻さむと若き力に力を合わせて昭和二十四年東京都神道青年協議会を結び固めて昭和三十一年東京都神道青年会と改め日に異に明き清き誠の心以て神仕へに仕へ奉り只菅に皇御國の弥栄を乞奉るに合わせて世を正しき道に導かむとして千々に心を碎き給ひて幾多の活動に勤め励みて在れば今し令和の御代が平和しく過行く事は汝命等が築き堅めし御功績にぞ在りける故茲に東京都神道青年会創立七十五周年の種々の事業執行ふ中に身籠り給ひし汝命等の高き尊き御心を仰奉り称へ奉らんと八十日は在れども今日を生日の足日と選り定めて流れ行く夜空の星の虚しくも汝命等を慰め奉る慰霊の御祭仕奉りて御前に御饌御酒種々の味物を始め遺族等の幣帛を供奉り東京都神道青年会会長篠泰比呂伊を始め携われる会員遺族等御前に参集ひ太玉串捧げ奉り状を平らけく安らけく諾ひ聞食して此より行先も天皇の大御代の弥栄へを常磐に堅磐に守り給ひ幸へ給ひ遺族を始め関係ふ諸人等神社にも広き厚き恩頼を蒙り給ひて直く正しき御光が弥遠永に照り輝くが如く神社神道の大道を天地共に立栄へしめ給へと謹み敬ひて白す

物故者慰霊祭

記念大会に先立ち、午後一時より物故者慰霊祭が斎行された。森田尚久議長が斎主を務め、以下祭員四名にて令和元年の創立七十年以降の物故者の御霊をお慰め申し上げた。

式次第

参進

是より先手水の儀あり

先、修祓

次、降霊

次、献饌

次、祭詞奏上

次、玉串拝礼

斎主・会長・遺族代表

次、撤饌

次、昇霊

退下

所役

斎主 森田 尚久

副斎主 猿渡 諒

典儀 毛利 勇人

祭員 森田 義崇

祭員 河野 浩治

伶人 安藤 和貴(鳳笙)

伶人 春日 貴仁(簞箏)

伶人 黒田 由美(龍笛)

記念式典

一、開式の辞

一、神宮遙拝

一、国歌斉唱

一、敬神生活の綱領唱和

一、会長式辞

一、記念事業経過報告

一、来賓紹介

一、来賓祝辞

一、祝電披露

一、『神道青年の歌』斉唱

一、聖寿万歳

一、閉式の辞

午後三時より田村康晃渉外部副

部長、品川明日香教養部部員の司

会進行により記念式典が執り行わ

れた。式典に先立ち、画家・さと

うたけし氏によるオープニングア

クトが行われ、オープニングムー

ビーの上映も行われた。服部佑子

副会長の開式の辞に始まり、神宮

遙拝、国歌斉唱、牧田笙教化部幹

事の先導による敬神生活の綱領唱

和と続き、篠泰比呂会長が式辞を

述べた。次に周年実行委員長であ

る内海通人副会長が周年事業報告

を行った。その後、都神社庁清水

祥彦副庁長、神青協大鳥居良人会

長より祝辞を頂いた。祝電披露の

後、『神道青年の歌』を斉唱、山

口祐樹監事の先導による聖寿万歳

奉唱、森田議長による閉式の辞に

て記念式典は厳粛裡に終了した。



記念講演

- 一、開演の辞
- 一、講師紹介
- 一、講演
- 一、閉演の辞

午後四時から、記念式典に引き続き田村渉外部副部長・品川教養部員が司会を務め、歌舞伎役者の中村獅童先生をお迎えし、「中村獅童の挑戦〜伝統と革新〜」と題したご講演を頂いた。



記念祝賀会

- 一、開宴の辞
- 一、会長挨拶
- 一、来賓祝辞
- 一、鏡開き
- 一、乾杯
- 一、『美はしき山河』斉唱
- 一、手締め
- 一、閉宴の辞

記念祝賀会は午後六時より行われ、椿拓磨教養部幹事、乙黒美緒教養部員が司会を務めた。平岡好仁監事の開宴の辞にて祝賀会が始まり、都神社庁宮崎久嗣副庁長より祝辞を頂き、東京都内の地酒による鏡開きの後、第十八代会長阿部明德先輩の発声により乾杯が行われ祝宴が始まった。

清興としてやおよろズの皆さんによる狂言と音楽のコラボレーションをご覧頂いた。今回、元日に発生した能登半島地震の復興を祈り、能登の地酒も用意された。和やかな雰囲気の中、参加者は互いに懇親を深め、会場は多に盛り上がった。

参加者一同、齋藤剛渉外部部長の先導により『美はしき山河』斉唱の後、土師幸士筆頭相談役による手締め、大鳥居良人監事の閉宴の辞にて記念大会は盛会裡に終了した。

(田村仁志)



記念品

・バッグハンガー

バッグハンガーのオリジナルデザインには、日本の復興と近代化を象徴するランドマークとして生まれ、戦後の歴史を今日まで見守ってきた「東京タワー」を描き、青年神職が守り伝えるべき「歴史」とより良い「未来」を希求し行動する誓いを込めた。

・メッシュポーチ

七十五周年の記念として「七十五」のオリジナルロゴが施されている。



神宮奉告参拝

令和六年三月十八日・十九日 於 神宮・熱田神宮

令和六年三月十八日・十九日、都神青創立七十五周年を迎えるにあたり、篠会長以下十七名の会員により、神宮への奉告参拝が行われた。

十八日七時三十三分、新幹線で東京駅を出発。九時過ぎに名古屋駅到着後、近鉄線特急で宇治山田駅へ。同駅付近にある「大喜伊勢店」にて昼食、その後徒歩にて神宮を目指した。



十二時二十分、外宮到着。神道青年会赤尾洋輔会長他会員が迎えて下さった。御垣内へ進み参拝。神宮神青にご用意頂いたバスに乗り内宮へ。十三時四十五分、内宮到着。御垣内にて参拝。当会七十五周年のご奉告を申し上げた。その後神宮神青案内の元、境内を進み御神楽奉納を拝観した。おほらい町を数十分散策し、十七時に「三交イン伊勢市駅前」に到着。

十八時、「二富士」に於いて、神宮神青と二十五年ぶりとなる懇親会が開催され、互いの親睦を深めた。

翌朝、九時にホテルを出発し、電車にて神宮前駅へ移動。十一時十分、熱田神宮到着。御垣内へ進み参拝し、「剣の宝庫 草薙館」を拝観するなど境内を散策した。十二時半に徒歩で昼食処の「辨大」へ向かい名物のひつまぶしを頂いた。名古屋駅到着後、数十分程買い物時間に充て、十四時四十三分の新幹線にて出発。十六時四十二分、東京駅着。

各記念事業の成功と当会の発展を、神宮を始めとする各社に、無事祈念することができた。

(榎本光孝)



参加者

篠泰比呂・内海通人・服部佑子
大鳥居良人・高島俊亮・榎本光孝
鶴岡慶子・千葉布子・佐和橋義之
毛利勇人・齋藤剛・田村康晃
本橋知子・渡邊喬弘・園田治穂
中川岳士・湯田正志朗

(順不同・敬称略)

都神青ホームページ更新

令和六年四月

都神青ホームページは創立六十周年の記念事業の一環として作成され、その後六十五周年、七十周年の記念事業において都度刷新されてきた。

今回七十五周年記念事業としての更新では、まずシステムとデザインを一新。「濁りなく、若々しく、勢いのある」青年会のイメージを表現するべく、青を基調としたデザインを採用した。



また都神青事業の案内欄と、リアルタイムで更新されるフェイスブックやインスタグラム欄をトップ画に設けた。これにより青年会の活動がより活発に感じられるようになった。

他にも都神青で作成した教化資料のダウンロードページや、コロナ禍中にフェイスブック上で投稿を始めた『東京神社今昔散歩』のバックナンバー、ペーパークラフトお札立てのダウンロードページ、『八月に祈る』の閲覧ページを設け、神職と一般の方々両者に活用して頂ける内容を盛り込んだ。

情報をまずインターネットで検索をする現代においては、ホームページは会の顔になるとも言える。時世に合わせ、会のイメージを伝え、そしてより青年会活動を周知しやすいホームページを目指した。会員各位にご活用頂けると幸いである。

(本橋知子)



HP



東京都神道青年会
www.tokyo-shinsei.jp

FaceBook

<https://facebook.com/tokyo.shinsei>



Instagram



@TOKYO_SHINSEI

教化資材

令和六年四月

本事業においては、チラシ・ポスターなどの紙媒体で配布するのではなく、ホームページ上のバナーで公開し、興味のある社社のみが使用・活用できることを目的として取り組んだ。

コスト削減・ペーパーレス化だけでなく、資料を活用しやすいように電子化して保存・保管を行うことにより、教化資料に興味を持つ各神社において、社務作業と広報等の効率化を図った。

お焚き上げ二十四コマ・一粒万倍日（令和六・七年）二十四コマ・家庭祭祀十コマの各種アイコンを、PNGファイルにて作成した。

(森田尚久)



①一粒万倍

一粒万倍日に合わせて参拝をする方や祈願者も増えており、神職よりも世間の方が関心を持っている情勢である。メディアや雑誌等でも一粒万倍日に対して「開運日」や「金運アップ」などといった内容で報道・掲載をされている。

このような社会情勢に柔軟に対応するべく、一粒万倍日一覽を作成し、神社側・参拝者側共に周知広報等の資料として作成した。



②お焚き上げアイコン

年末年始はお焚き上げの受付が多くなる時期であるが、それと比例して、決まり事を守らない参拝者も多数見受けられる、という声を聞くことが多々ある。文章のみでの掲載となると、受付事項を流し読みしてしまう参拝者もいる様子なので、アイコン化することで受付内容を伝わりやすく伝えられるよう作成をした。



③家庭祭祀

神宮大麻・家庭祭祀を啓発するにあたり、柔らかい印象と表現を用いて各アイコンを作成した。興味を持つ各神社において、広報活動の一環として活用頂けるよう整えた。



勤労奉仕

令和六年六月十日・十一日 於 武蔵陵墓地

令和六年六月十日・十一日の二日間にわたり、武蔵陵墓地に於いて「勤労奉仕」を行った。

今回の皇居勤労奉仕は、コロナ禍明けの年で多数の団体から応募があったため抽選となり、残念ながら奉仕が叶わない結果となった。しかし慶事を記念する事業なので中止にはせず、代替として武蔵陵墓地での各陵墓参拝・勤労奉仕を提案し実施する運びとなった。奉仕中は会で作製した七十五周年記念ロゴ入りの白作務衣に身を包み、心を一つにして臨んだ。



一日目、曇。一同は武蔵陵墓地駐車場に集合後、作務衣に着替え、勤労奉仕の前に大正天皇陵・貞明皇后陵・昭和天皇陵・香淳皇后陵を参拝。皇室の弥栄と国家の安寧を祈念した。まず休憩所で担当者より奉仕について諸注意等の説明を受けた。

この日は集合時間まで雨が降っており、駐車場周りの植え込みの落葉収集から始まった。落葉は雨

に濡れており、集めるのと運ぶ作業は一苦労だった。駐車場は広く一日で半分程度の清掃しかできなかった。悔いが残りつつ一日目の勤労奉仕が終了した。

二日目、晴。一日目と比べ気温も高く、熱中症対策をしながら行われた。まず、それぞれの陵墓参拝から始まった。午前中は参道の砂利道の清掃。気温、湿度共に高く小休憩を多くとりながら行われた。午後には多摩陵の御垣内にて除草作業を行った。御垣内は広葉樹、高木樹等が多く、日陰もあり休憩をとりながらの作業であった。最後に多摩陵墓監区事務所所長から、お礼のご挨拶を頂き、賜物伝達が行われた。その後には解団式を行った。

両日ともに天候にも恵まれ、無事に奉仕を終えた。皇居での奉仕とは違う様子で大変意義のある二日間であった。

(毛利勇人)



参加者

篠泰比呂・内海通人・大鳥居良人
小野亮貴・山中聡一郎・毛利勇人
渡邊喬弘・石川勝弥・富田剛弘
春田昇三郎・石倉義浩・鶴岡涼
森田義崇・猿渡諒・前村達彦
中川岳士

(順不同・敬称略)

神道行法錬成研修会

令和六年七月四日・五日 於 武蔵御嶽神社御神域



以上を占めることが多く、開講式から緊張した面持ちの参加者が目立ったが、熱意にあふれた様子うかがえた。綾広の滝に着き、鳥船行事が始まると、厳肅な御神域に禊歌が高らかに響き渡り、全員が一体となって行事を行った。

七月四日・五日の二日間にわたり、都神青創立七十五周年記念事業として「神道行法錬成研修会」が武蔵御嶽神社御神域に於いて総勢三十五名で開催された。開講式では、長年にわたり開催拠点としてお世話になっている麻知家様に感謝の意を込め、周年事業記念品として几帳一對を篠会長が贈呈した。

開講式終了後、篠直嗣・奥野雅司両道彦、清水祥彦・栗原健人・細野喜久各助彦のご指導のもと、立業指導から錬成会が始まった。ここ数年は初参加の受講者が半数

夜間講義では神社巡拝家の佐々木優太先生が「佐々木優太が考える御師としての働き」御師活」と題して講演した。年末に予定されている御朱印展を視野に入れ、御朱印の意味を歴史的観点、神社側の視点、参拝者目線という多角的な視点から解説。また、参拝者目線の神観念と神職の常識との違いにも触れ、それを導く神職の姿勢について考えさせられる内容となった。続いて、都神社庁理事の石倉義康先生が、御岳山の神道行法錬成研修会の歴史について語られた。この研修会が都神青の中心的な事業として長く受け継がれてきた背景に触れ、七十五周年という節目を迎えた意義を改めて実感させられた。

二日目の朝には、佐々木先生も加わって禊行が行われた。冷たくも清らかな御岳山の水を頂くことで心身を浄化する受講生たちの姿が印象的だった。三回目の御滝は希望者への声掛けであったが、多くが自ら進んで入っていった。最後は武蔵御嶽神社にて正式参拝を行い、全員で感謝の祈りを捧げ、研修会は充実のうちに幕を閉じた。

(佐和橋義之)

東京都神社庁錬成行事道彦・助彦

道彦 篠 直嗣

助彦 奥野 雅司

栗原 健人
細野 喜久

講師

神社巡拝家 佐々木 優太先生

東京都神社庁役員

副庁長 清水 祥彦

理事 篠 直嗣
石倉 義康
奥野 雅司

参加者

篠泰比呂・内海通人・大鳥居良人
齋藤剛・千葉布子・佐和橋義之
豊田芳亮・赤尾優・小白川宮貴
馬場慶太郎・乙黒美緒・今井健琉
川辺徹・青山大和・吉田充慶
伊豆田ちえり・鶴岡涼・田中啓瑛
北山武潤・山崎智徳・富田剛弘
石川太喜・湯田正志朗・木佐木俊孝
松下瑛佑・人見共祐・澁谷武俊
小山美咲 (順不同・敬称略)

周年事業記念品



なつやすみ子供神社体験学習

令和六年七月二十三日・二十四日 於 明治神宮

令和六年七月二十三日・二十四日の二日間、都神社庁主催・都神青共催による「第二十四回なつやすみ子供神社体験学習」を明治神宮御神域に於いて小学校四年生から六年生が対象となり参加児童五十二名のもと開催した。

猛威を振るった新型コロナウイルスの影響により宿泊を自粛していたが、今回は五年ぶりに宿泊を伴う従来の形式へと戻し、各執行部会では入念な会議と議論が展開された。

今回のテーマは「感謝」がありがとうの気持ちを大切に」を主題に掲げ、本体験学習では日本文化の中でも特に尊重している「感謝の心を表す行為」について学んで頂いた。参加児童また親御さんにも感謝表現の深い意味や歴史があることに改めてお考え頂き、ひとつでもふたつでも将来を担う若者たちの今後の糧になるような経験や体験をしてもらいたいという想いで本体験学習を実施した。



一日目

当日の朝、受付には続々と親子が到着し、にこやかな笑顔を浮かべている子や緊張している姿の子もいた。参加者は到着後すぐに白衣袴へと着装した。

厳かな空気の中進められた開講式後には、各班整列し神楽殿で行われる開講奉告祭へと出発した。終了後に行われた炎天下の中での写真撮影は子供達も辛そうな一面を見せていた。会館へと戻り昼食を食べた後、正座室にてお参りの作法などをご指導頂いた。

その後、各班参集殿へと向かい

おやつを食べ、都神青演劇同好会による「感謝の気持ちの伝え方」狛犬阿吽の日常」を鑑賞。終演後、会館で御朱印帳作りを行い、皆様々な用紙の組み合わせで唯一無二の御朱印帳を工作した。

夕食後は夜間参拝へと出発。滅多にできない経験と都会とは思えない程に静かな御神前では皆何を感じただろうか。終了後は会館へ戻り、風呂洗面を済ませ皆眠りについた。

日程表 7月24日(水)	
5:30	起床・洗面
6:00	国旗掲揚・国歌斉唱
6:30	寝を体験してみよう
7:30	早朝参拝
8:30	朝食
9:30	クイズラリー
12:30	昼食
14:00	種菜をきこう・楽園にさわろう
15:00	正式参拝
16:00	閉講式・解散

日程表 7月23日(火)	
9:00	集合・受付
10:00	開講式
11:30	開講奉告祭・記念写真
12:30	昼食
13:30	神社体験①
15:00	おやつ
15:30	神青劇団演劇
16:30	神社体験②
18:00	夕食
19:00	夜間参拝
20:00	お風呂・自由時間
22:00	就寝



二日目

二日目は五時半に起床。国旗掲揚の為会館前に集合し、その場より走って禊場へ移動。慣れない禊装束に困惑する子もいたが、鳥船行事では子供達のパワーで皆の声が轟いていた。



その後、洋服に着替え一日目の作法の時間で学んだことを活かして朝拝を行った。子供達が揃って綺麗な拝礼ができたことに、場にあったスタッフは皆感動していた。会館へ戻り、各班対抗のクイズラリーが始まる……。プロ班のスタートの声と共に各班一斉に走り出した。皆予定よりも早くゴール



し、余った時間で大縄跳びを行い大いに盛り上がった。

昼食を食べ、饗膳室で雅楽を鑑賞し最後の正式参拝へ向かった。閉講式では子供達やリーダーは涙を浮かべ別れを惜しんだ。

本体験学習を通じ、未来を担う子供達に伝統文化や感謝の気持ちを伝えられたか気掛かりではあるが、子供達がいつの日かこの体験を力に変える日がくれば幸いである。教化活動の一環として今後も視野を広げ、ここでしかできない体験を模索・熟考し、より良い事業となるよう努力してまいりたい。

(渡邊喬弘)



（順不同 敬称略）

都内戦災震災殉難者慰霊祭 並びに靖國神社参拝

令和六年八月十五日 於 東京都慰霊堂・靖國神社

戦争や震災で亡くなった東京都内の御霊を慰める「都内戦災震災殉難者慰霊祭」が八月十五日、東京都慰霊堂で執り行われた。神社関係者をはじめ約九十人が参列し、内海通人副会長が斎主を務め、御霊の安寧を祈った。

慰霊祭は、関東大震災や東京大空襲で亡くなった約十六万三千体の遺骨が納められている東京都慰霊堂で終戦日に毎年斎行している。内海斎主を含め、都神青の八名が祭員として奉仕した。関東大震災から百年を迎えた昨年に引き続き、上皇上皇后両陛下の御製、御歌から作られた「光舞」を都神青会員四名が奉納した。

本年の慰霊祭は都神青創立七十五周年記念事業としても斎行された。東京都慰霊協会が発刊した、『忘れない。伝えたい。関東大震災と大空襲』という冊子を百部用意し、戦争の恐ろしさや命の尊さを改めて思い出し、参列者に配布した。

慰霊祭終了後は靖國神社に移動し、正式参拝を行い、英霊に感謝と哀悼の誠を捧げ、平和の祈りを捧げた。
(齋藤剛)



式次第

参進

先、修祓

次、降霊

次、献饌

次、祭詞奏上

次、祭祀舞奉奏（光舞）

次、玉串拝礼

斎主、会長、都神社庁庁長

関係団体長、他

次、撤饌

次、昇霊

退下

所役

〔祭員〕

斎主

副斎主・祓主・陪膳

大麻所役・膳部

塩湯所役・警蹕・手長・

玉串後取（斎主）

祭詞後取・手長・玉串後取

案後取・手長

薦後取・手長・前導

舞人（一藁）

舞人（二藁）

舞人（三藁）

舞人（四藁）

典儀

典儀補助

〔伶人〕

鳳笙

筆箒

龍笛

羯鼓

太鼓

鉦鼓

歌方

内海 通人

榎本 光孝

佐和橋義之

中川 岳士

石倉 義浩

瀧 亮子

湯田 正志朗

高島 俊亮

鶴岡 慶子

富田 剛弘

千葉 布子

山口 直敬

小泉 勝史

安藤 和貴

春日 貴仁

黒田 由美

森田 義巳

森山 芳寛

中村 朋子

香取 正彦

都内戦災震災殉難者慰霊祭 祭詞

隅田川の水際に静まります此の美しき東京都慰霊堂を厳しの斎庭と秋ひ清めて神籬刺し立て招ぎ奉り坐せ奉る先の戦災震災殉難者の御霊の御前に斎主東京都神道青年会副会長内海通人謹み敬ひて白さく

去りにし昭和十六年師走垂細垂の空に八重雲起ち籠めて 史にも見へぬ大き戦ひ起こりしより皇御國の防人として御戦に従ひ給ひ 大和心の鋭心奮ひ起こして海行かば水漬く屍山行かば草生す屍と赤き心の一筋に身も棚知らに奮ひ戦ひ給ひて銃後を守る汝命達は御國を思ふ忠なる心に 乏しきに堪へ苦しきを凌ぎて玉と碎けん事も否まず 互に励まし共に締り給ひて在りしを遂に昭和二十年弥生の十日を始め東京都の空を飛び交ふ数多の敵機より雨霧の如く焼夷弾が降り注ぎ 火焰は早瀬の如く逆巻き黒煙は黒雲の如く空を覆ひ只一夜の内に十万を数へる尊き御命が散り失せ給ひぬ 皇御國は古より地震の多き國なれば忘れ難き大正十二年長月の一日に都を始め関東一円の地を大きく揺り動かせ 瞬く間に 煙の波火焰の海に包まれ焼野の原と為し果てて 多くの尊き御命を奪ひ去り給ひぬ 悲しくも悲しき悔しくも悔しき事の極みにぞ在りける中に 今日を生日の足日と選ひ定めて汝命達の御霊を偲び奉り今度東京都神道青年会創立七十五年記念の数多の事業を執り行ふ中東京都神道青年会会長篠泰比呂伊 東京都神社庁庁長小野貴嗣伊 神道政治連盟東京都本部本部長 山口直英伊を始め会員また関わる人々御前に参集ひ汝命達を忍び奉らむと 御米御酒種々の味物を机代に置足はして 咲匂ふ千草の花をも供へ奉りて 御神楽奏で御祭仕奉る状を平らけく安らけく間食し相諾ひ給ひて 天皇の大御代の御栄へを常磐に堅磐に守り給ひ幸へ給ひ 今も将来も数島の日本の國の行末誤つ事無く導き給ひ 天下四方の國民に至るまで夜の守り日の守りに守り恵み幸へ給へと謹み敬ひて白す

辞別きて白さく今年一日に起こりし能登半島地震に於いては未だ復旧の目途が立たず今も数多の災害に苦しむ諸人達が身も心も平穏に守り導き給へと恐み恐み白す

TSS 懇親事業

令和六年八月二十八日 於 穴守稲荷神社

JALスカイミュージアム・羽田ギャラクシーホール

令和六年八月二十八日、穴守稲荷神社・JALスカイミュージアム・羽田空港ギャラクシーホールにて「TSS 懇親事業」を開催し、会員・家族のほか、福島県神道青年会・神奈川県神道青年会をお招きし総勢五十三名が参加した。

まず穴守稲荷神社を正式参拝し、井上直洋宮司より穴守稲荷神社の歴史とともに、「今回の見学にあたり空の安全に対して神職の皆さんで祈りを捧げて頂きたい」とご挨拶を頂いた。

正式参拝の後、はとバスに乗



り、我々は幻の見学ツアーと言われているJALスカイミュージアムを訪れ、ミュージアム内の見学の後に格納庫へ移動した。格納庫内ではジェットエンジンの真下を潜り、飛行機の離発着を間近で見学して、改めて多くの命を預かり、空の旅を提供する飛行機の大きさに驚いた。見学終了後は邸内社に参り、篠会長に合わせ参加者一同列拝し、羽田空港の空の安全を祈願した。

懇親会は羽田空港ギャラクシーホールにて、夜の滑走路を目の前にしてビューフェ形式で開宴された。事業部が作成したクイズに参加した子供達は、懇親会で答え合わせを行い、受け取った景品を片手に滑走路を飛び交う飛行機を見学していた。

本事業では、初めて企業見学や懇親事業での正式参拝を取り入れた。新しい試みで懸念点もあったが諸先輩方や会員、その家族にも

大勢の参加があり有意義な時間を過ごせた。また福島神青・神奈川神青の方々を迎えたことに加え、会員との親睦を深めることができ大いに賑わった。

(篠原萌花)

参加者

篠泰比呂・内海通人・服部佑子
森田尚久・平岡好仁・井上直洋
土師幸士・森下雅仁・森下麻梨子
森下詞仁・瀬川真澄・瀬川政伸
瀬川禾澄・高島俊亮・高島千瑛
田村仁志・千葉布子・山中聡一郎
佐和橋義之・毛利勇人・毛利悠人
毛利涼楓・齋藤剛・田村康晃
渡邊喬弘・園田治穂・篠原萌花
石山寿雄・三善和真・品川明日香
乙黒美緒・中川岳士・猿渡惇
猿渡文音・猿渡盛継・猿渡実和
大島居瑛子・瀧亮子・谷口新
石倉義浩・田村康陽・前田友輝
若森穂香

福島県神道青年会

深谷瑞比古・吉田芳樹・大原康貴
大原康晴・丹治良樹・加藤直昌

神奈川県神道青年会

志村幸弥・小泉匡史・山本喜道
中村友郎・坂路慎己

(順不同・敬称略)



御朱印展

東京の神社御朱印大集結

令和六年十二月十一日～十六日

於銀座アポロ昭和館YOHAKU



都神青創立七十五周年記念事業
として、二百二十五社から協力
頂き、都内で初めて「御朱印展―
東京の神社御朱印大集結―」が銀
座アポロ昭和館YOHAKUに於
いて十二月十二日～十六日に開催
された。

一年以上前から企画準備を進

め、初の試みということもあり、手探り状態からスタートとなった。開催時期に関しても様々な意見が出たが、お正月の参拝促進も目的の一つとし、神社界としては多忙な時期ではあるが十二月に開催することを決めた。開催場所に関しては、一般の方が対象という



ことを意識し、利便性などを重視して、歌舞伎座横という東京の中心地であり駅からも近い場所を進めることとした。今回、文化祭のようにならないようスタイリッシュに、という目標もあり、ポスター作成や会場レイアウト等イベント開催のノウハウ等を外部の業者にもご協力頂くこととした。



夏頃、御朱印展開催にあたり、各社に御朱印の提供と調査書記入をお願いをし、多くのお社からご協力を頂くことができた。

十月の記念大会後からは、本格的に展示の準備を始め、ご提供頂いた御朱印を専用のボードに張り付けるなどの作業を会員一同行った。この形式に辿り着くまでには、ボードの材質・色等、何度も試行錯誤を繰り返した。

初日である十二日は、実行委員の千葉布子・園田治穂の両名による会場清祓の後、設営・レイアウト

トの準備を行った。午後五時から関係者対象の内覧会を行った。翌十三日からは一般の方を迎え、連日多くの方に来場頂き、四日間で約五千人の方々に来場頂いた。来場者へは、調査書を基に作成したご協力神社一覧が記されているパンフレットを配布した。会場内の御朱印は全て撮影禁止としたためか、熱心にメモを取る方が多くいらっしやったのがとても印象的だった。また、銀座という場所柄か外国の方の来場もあった。開催期間中、予想を大きく上回る



方々に来場頂き、連日開場時間を早める、混雑状況を御朱印展公式インスタグラムにて発信する等の対応を取った。寒い中、外で長時間お待ち頂く時間帯もあったが、都氏青協にもご協力をお願いし、大きなトラブルもなく、次回開催期待の声や、感謝や労いの言葉をかけて頂けた。

また、こちらも初の試みとなったが御朱印展記念品販売運営委員会からデザイン監修のみ携わった記念品（御朱印帳やクリアファイル等）の販売も行い、好評を得た。

企画当初は、本当に開催ができるか不安に思う部分もあったが、結果として多くの方に来場頂き、開催目的の一つであった、この御朱印展が参拝のきっかけとなることや、ご社頭で記念品の御朱印帳を見かける機会があったならば嬉しく感じる。今回一般の方を対象とするなど、これまでに無い形での事業となったが、多くの方のご協力により無事開催ができ、今後の可能性を広げることができた。

（服部佑子）



御朱印展フォトアルバム

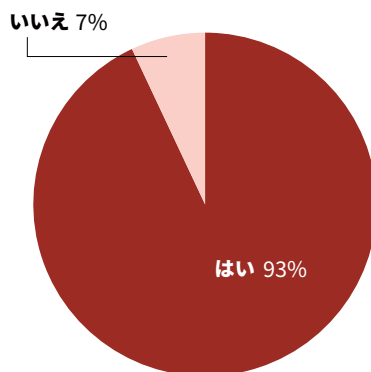


御朱印展 Instagram

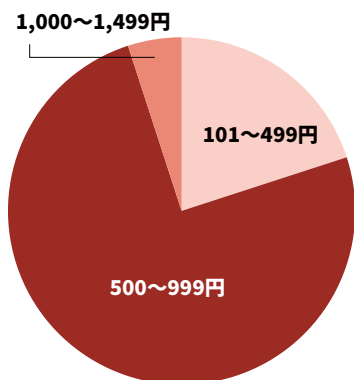


各社御朱印 アンケート

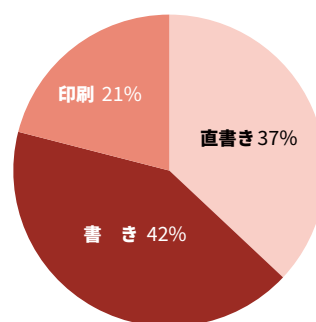
御朱印の授与はしていますか



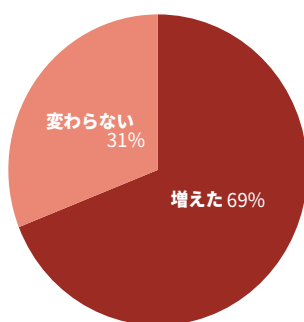
御朱印の初穂料について



御朱印の奉製形態について

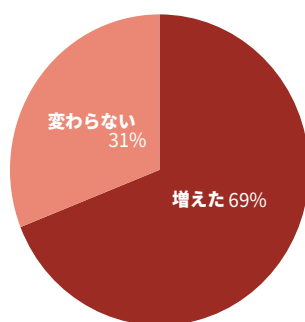


コロナ五類（令和五年五月）以降、
御朱印を受ける参拝者の増減



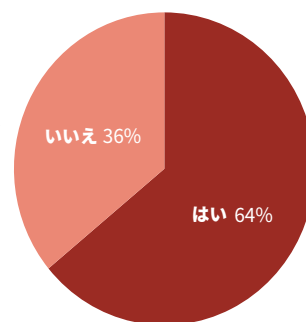
【日本人】

コロナ五類（令和五年五月）以降、
御朱印を受ける参拝者の増減



【外国人】

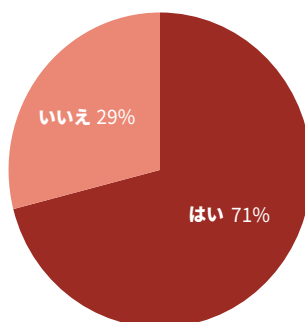
御朱印の授与において良かったこと
とはありますか（参拝者増減以外）



「はい」とお答え具体例

- ・参拝者と直接お話する機会が増えたこと
- ・収入の増加

御朱印の授与において困ったことはありますか

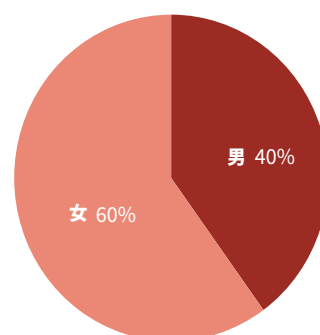


「はい」とお答え具体例

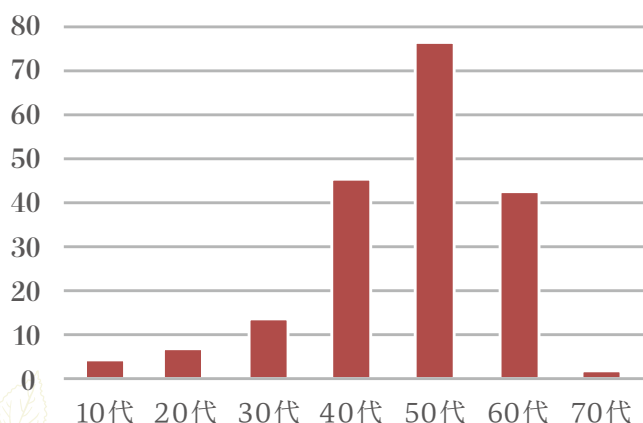
- ・御朱印帳の取り間違え、書き間違え
- ・他の社務にかけられる時間が減り、授与所を閉めてからの作業増加。
- ・混雑時の対応
- ・直書きへの要望対応

御朱印展 来場者アンケート

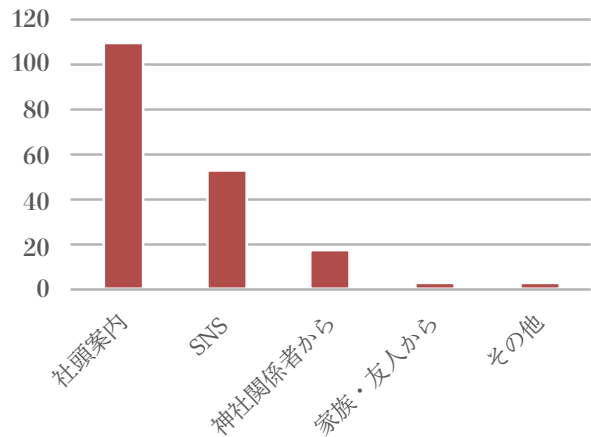
来場者男女比



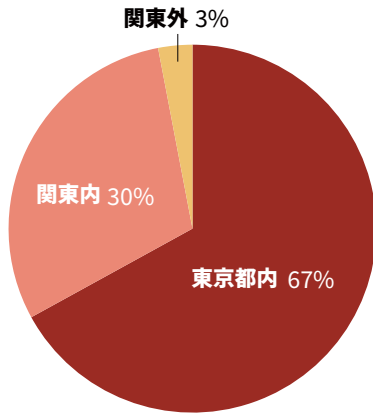
来場者年代



御朱印展を何で知りましたか？



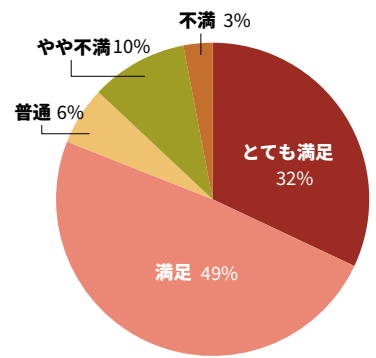
どこから来場しましたか？



感想・ご意見から一部抜粋

- ・ 沢山の御朱印は、すごく圧巻でしたがもっと拝見したいし参拝したいと思いました。
- ・ 会場が手狭でした。もう少し広い場所なら良かったと思います。
- ・ いずれは関東全域のもやってほしいです。
- ・ 写真可にして頂けると、後に見返しが出来、行きたい所が一目瞭然となりありがたい。
- ・ 歌舞伎座の近くというのも良かったです。
- ・ 来場者数に対し、会場が狭く感じた。そのため、あまり落ち着いて見ることができなかったのが残念です。有料で良いのももっと広い方がいいのかなと思いました。
- ・ 次回があればもう少し広い会場で開催出来ればと言うのは関係者の皆さまも同じ気持ちではないでしょうか。コスト的な問題は十分承知ですが、例えば御朱印帳等のグッズの他に「御朱印展」の御朱印を頒布してみるなども考えても良いかも知れません。御朱印展の来場者は百パーセント購入すると思いますよ。

来場者満足度



- ・ カラフルな、可愛い御朱印がたくさんあり見て楽しかったです。またシンプルな墨文字に朱印も、それぞれの神社の力強さ、柔らかさを感じました。まだ行ったことのない神社へお参りに行きたくなりました。
- ・ 入場する時に貰ったパンフレットに書いてある神社名と展示してある御朱印の順番がバラバラだったので探すのに苦労した。パンフレットの神社名のところにQRコードがあると見返す時にわかりやすいと思う。
- ・ とても素敵な御朱印ばかりで帰路は余韻に浸っておりました。無料というのもありがたいことでした。ただ、時間がなさすぎて(待ち時間があり)じっくり見ることが出来なかったのが残念です。
- ・ もうちょっと神社の歴史とか御朱印の意味とかあれば良いと思

います。

- ・ 別料金でパンフレットの的ながあれば必ず買うのに。せっかくなので第一回目を作って欲しいです。是非よろしく願います。
- ・ 入場制限をしていたのでゆっくり見れるかなと思っていましたが、思っていたより場所も狭く、とても混雑していました。早々に退室してしまいました。
- ・ たくさんの神社の御朱印を無料で見ることができて、とても良かったです。特に小笠原や伊豆七島はなかなか訪問できないので貴重だと思いました。
- ・ スペースがあれば、御朱印巡りのコースの紹介とかあればよかったかと。
- ・ 展示している御朱印が通常版なのか季節限定版なのかなど、分かるもっと良かったです。
- ・ 通常御朱印なら通常御朱印。月を決めたものを出すと、統一性が欲しかった。
- ・ このような貴重な御朱印を展示する機会を設けて頂きありがとうございます。とても興味深く拝見することが出来ました。なかなか伺うことの出来ない地域の御朱印を見る事が出来、とても参考になりました。撮影禁止と言うこともあり人がさほど滞留することなく運営されているのは良かったと思います。

国内慰霊祭

令和七月三日・四日・五日 於 八丈島

大東亜戦争終戦八十年の年、都神青創立七十五周年記念事業である「国内慰霊祭」が、東京都最終の防衛地である八丈島に於いて厳粛に斎行された。

東京都の神職として都内激戦地の硫黄島をはじめ、南方戦線にてその身を捧げられた英霊、そして

戦禍により尊い命を失われた戦没者の御霊に対しての慰霊を行うべく、かつての戦地に訪れた。数多くの戦跡などを自分の目で見て感じた上で、戦争の事実を風化させることなく、御國の安泰と世界の

平和推進をお誓い申し上げた。八丈島は連日雨天が続いていた。悪天候の中、八丈町役場の林薫さんの案内で戦跡を巡り、祭典は八

文ビューホテル内で執り行った。祭典前には祭員一同で大祓詞を奉唱。祭典中には一同で『君が代』

『浦安の舞』『海行かば』を奉奏斉唱し、何とも感慨深いものであった。

戦争体験者・遺族が少なくなる昨今、周年事業のみならず、先輩

諸兄より引き継がれる英霊顕彰を積極的に取り組み、英霊が望んでいた世に近づけるように、祈りを通じて次世代へ平和の大切さ、戦争の悲惨さを身を持って伝える責務がある。今後も都神青が一丸となり果敢に行動し、活動していきたい。

この度の事業に格別なるご高配を頂いた優婆夷宝明神社菊池孝光宮司様を始め、多くの方々にご心より感謝申し上げます。

参加者

篠泰比呂・内海通人・服部佑子

大島居良人・奥野雅司・田村康雄

土師幸士・田中芳明・大野裕丈

高島俊亮・鶴岡慶子・千葉布子

山中聡一郎・佐和橋義之・毛利勇人

佐佐木照展・齋藤剛・田村康晃

本橋知子・渡邊喬弘・猿渡諒

中川岳士・大島居瑛子・石川明寿

春日貴仁・春田昇三郎・石倉義浩

黒田由美・安藤和貴・伊豆野誠

(順不同・敬称略)

(一日目)

時間	行程
6:30	集合 羽田空港第2ターミナル
6:45	出発式
7:50	羽田空港出発 全日空 1891 便
9:00	八丈島空港着
10:00	優婆夷宝明神社着 正式参拝
10:30	戦跡巡礼 直射砲台上層 人捨て穴
11:30	榎立三島神社着 自由参拝 境内招魂社・招魂碑 献花拝礼
12:00	戦跡巡礼 榎立招魂社
12:30	昼食
13:30	戦跡巡礼 バルチック艦隊監視施設跡 東光丸殉難者慰霊碑 献花拝礼 回天格納壕 底土 護神山公園
15:30	天照皇大神宮大賀郷分社着 自由参拝
16:00	ホテル着
16:30	習礼
18:30	懇親会

(二日目)

時間	行程
8:50	ホテル内 会議室 集合
9:00	慰霊祭 準備
10:00	大祓詞奉唱
10:30	習礼
11:00	慰霊祭斎行
12:00	片付け
13:00	昼食
13:30	戦跡巡礼 三根戦没者 招魂社
15:00	八丈島物産館 民芸あき本店
16:30	八丈島空港着
17:30	八丈島空港発 全日空 1896 便
18:30	羽田空港着
19:00	解散式

結団式

令和七年二月十二日、当会創立七十五周年記念事業「国内慰霊祭」に先立ち結団式を靖國神社に於いて行なった。正式参拝の後、落合雅義禰宜より慰霊への祭祀の大切さについて御挨拶を頂き、行程打合せと習礼を行なった。その後公益財



団法人日本文化興隆財団会議室に移動。国内慰霊祭の勉強会として「島嶼激戦地と皇室の祈りと慰霊」と題し、「皇室の祈りと慰霊」と「八丈島の戦史」の二本立てで、公益財団法人日本文化交流財団編集室編集長伊豆野誠先生をお招きし御講演頂いた。

一日目

三月四日、午前七時三十分羽田空港から八丈島に出発した。到着後、風が強く断続的に雨が降る中レンタカーで移動。優婆夷宝明



神社にて正式参拝、菊池宮司よりお話を頂き、慰霊祭に使用する祭具をお借りした。参拝後、現地案内人である八丈町役場の林氏と島内の戦跡巡礼。「直射砲台上層」は軍艦を砲撃するため海岸に向いており島内に数か所点在。次の「人捨て穴」は人口増加を防ぐため、江戸時代まで口減らしが行われていた。また、戦時中は地下壕を掘り進め、硫黄島の戦いの教訓を生かし、より強固で複雑に造られている。次に国内慰霊祭の斎場予定

地でもある「檣立三島神社」を参拝、境内の招魂社・招魂碑でも献花拝礼を行なった。

その後昼食を取っている頃より雨も強くなり、戦跡巡礼が困難となった為、車中見学に変更。LINEのグループ通話機能を使い、案内の方に説明頂いた。乙千代ヶ浜付近にある「バルチック艦隊監視施設跡」は海岸数か所に点在する。次に、「東光丸殉難者慰霊碑」を訪れ献花拝礼を行なった。疎開船東光丸は八丈島から本州へ疎開中アメリカ海軍潜水艦の攻撃を受け沈没し、乗船九割の約百五十名が亡くなった。次に、底土地区「回天格納壕」に向かう。壕の中に入り、敵艦隊は八丈島には来襲せず、出撃の機会は訪れずに終戦を迎えた」と説明頂いた。

ホテル到着後、荒天により予定していた斎場での斎行は難しく、止むを得ず斎場を変更する判断をした。ホテル内一室を借用し準備後一時間ほどの習礼を行い、その後、場所を移動して懇親会を行った。八丈島郷土料理を食しながら、参加者一同懇親を深め、祭典に向けて心を一つにした。

二日目

三月五日、荒天の為斎場を変更し午前九時にホテル内会議室に集合。斎場補設後、慰霊祭に先立ち、毛利勇人教化部部長を先導に斎主以下祭員全員で大祓詞を奉唱し皆心を一つにした。その後、再度習礼を行い最終確認を行なった。

参列者も集まり、午前十一時より祭典を開始。修祓、降霊の儀、続く献饌では五台の神饌と玉串料をお供えた。斎主である篠会長が祭詞を奏上し、国歌『君が代』を高島俊亮総務部部長の先導により斉唱。続いて神楽『浦安の舞』を全員で和歌を斉唱し奉奏の後、『海行かば』も佐和橋義之教養部部長の先導の後、皆で斉唱し英霊に捧げた。斎主玉串奉奠の後、参列者玉串奉奠（都神社庁田村康雄理事、奥野雅司理事、公益財団法人日本文化交流財団編集室編集長伊豆野誠氏、都神青土師幸司・田中芳明・大野裕丈相談役、八丈町教育委員会林薫氏）を行い、撤饌、昇霊の儀、田村理事のご発声により神酒拝戴。篠会長が挨拶・御礼を申し上げ、慰霊祭を無事に



納めることができた。荒天により齋場を急遽変更しての祭典であったが、奉仕者・参列者の英霊に対する想いが一つに合わさり、斎行することができた。

昼食をとって一息をついた後、午後には三根地区「招魂社・招魂碑」に献花拝礼をした。その後、八丈島物産館に立ち寄った。

空路にて午後七時頃、羽田空港に到着。空路にて解散式を行い参加者は各自帰路へ。

反省点・改善点は多々あったが、祭儀を厳粛に斎行することができ、今回の事業にお力添えを頂いた多くの方へ感謝の気持ちに胸に、今後も慰霊の心を受け継いでいくべく思いを新たにしたい。

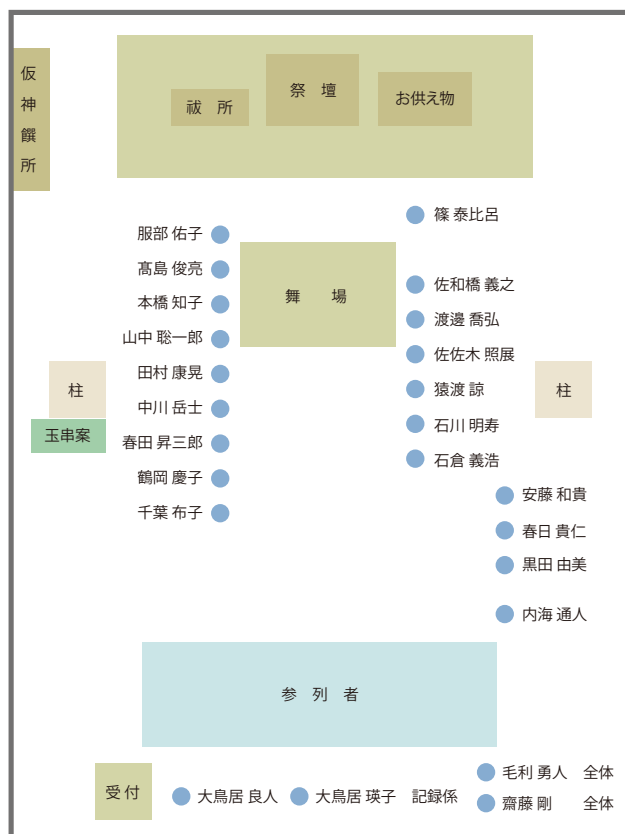
(毛利勇人)

式次第

- 一、修祓
- 一、降霊の儀
- 一、献饌
- 一、祭詞奏上
- 一、国歌斉唱
- 一、『浦安の舞』奉奏
- 一、『海行かば』斉唱
- 一、玉串拝礼
- 一、撤饌
- 一、昇霊の儀
- 一、直会



国内慰霊祭 平面図



所役

齋主 篠泰比呂

典儀 内海通人

副齋主・祓主 服部佑子

大麻所役・『君が代』先導 高島俊亮

塩湯所役・『海行かば』先導 佐和橋義之

陪膳 本橋知子

膳部 渡邊喬弘

警蹕(降霊)・手長一 山中聡一郎

警蹕(昇霊)・手長二 佐佐木照展

齋主玉串・手長三 田村康晃

祭詞後取・手長四 猿渡諒

参列者玉串・手長五 中川岳士

御座後取・手長六・直会 石川明寿

御座後取・手長七・直会 春田昇三郎

前導・手長八・直会 石倉義浩

伶人(筆簾) 春日貴仁

伶人(龍笛) 黒田由美

伶人(鳳笙) 安藤和貴

舞姫 鶴岡慶子

舞姫 千葉布子

全体・手水・直会 毛利勇人

全体・手水・直会 齋藤剛

受付 大鳥居良人

記録係 大鳥居瑛子

国内慰霊祭 祭詞

見響かす静けき大海原に囲まれたる八丈の御島の此の所を厳しの斎庭と祓ひ清めて神籬
刺し立て招ぎ奉り坐せ奉る先の激しき御戦の端に遙か南方の島々又八大島を始めて帝都
に列す小笠原伊豆の島嶼の地にて尊き命を捧ぎ水漬く屍草むす屍と大和桜の嵐に散れる
が如く散り逝き給ひし数多の御霊の御前に東京都神道青年会 会長 篠 泰比呂 謹み
敬ひて白さく

昭和十六年師走に大東亜の空に八重雲立ち籠めて史にも見へぬ大戦ひ起こりしより益
荒男は赤き心の一筋に身も棚知らに鉄の御盾と奮ひ戦ひ給ふ最中銃後を護る軍人に非ざ
る人々男女の別無く御國を想ふ忠なる心に乏しきに堪へ苦しきを凌ぎて玉と砕けむ事も
否まず互に励まし共に締め給ひて遙か南洋の島々より此の島に至る迄皇國を護りし汝命
等は己が命も顧みず力の限り戦ひつつも日に異に戦の状も変わり激しさ増しぬれば老ひ
も若きも己が身を賭し國難に臨み回天せん事を求め千早振る神風吹き下し太平洋を震え
させんと励むれども必ずしも戦局好転せず時に暗き空より数多に降り注ぐ爆弾を時には
冥海より走り来る魚雷を受けて春雷に散る桜花の如くに其身尽きるとも皇國の為國民の
為或は父母妻子家族朋友の為敷島の大和魂を奮ひ立たせ耐へ忍び戦ひ続け尊き命失せ給
ひしは悲しくも悲しき悔しくも悔しき事の極みにぞ在りける今し令和の御代となり今日
を生日の足日と選び定めて汝命達の御霊を偲び奉り東京都神道青年会の若き神職等始め
遺族島民関係者等御前に集ひ御饌御酒種々の味物を机代に置足はして共に歌舞の技奏奉
りて御祭仕奉る状を平らけく安らけく間食し相諾ひ給ひて東方より昇りし朝の陽光を纏
ふ青龍の如くに御國の守護神と天翔り國翔り坐して天皇の大御代の御栄へを常磐に堅磐
に守り給ひ幸へ給ひ我々日本國民慰霊顕彰の心忘るる事無く進む様を見守り給ひ今も將
来も敷島の日本の國の行末誤つ事無く導き給ひ夜の守り日の守りに守り恵み幸へ給へと
謹み敬ひて白す



東京都神道青年会 創立七十五周年記念事業

協賛者御芳名

〔敬称略 地区別・神社庁名簿順〕

金、壹拾伍萬圓也

千代田 日枝神社

宮西 修治

千代田 神田神社

大鳥居信史

千代田 東京大神宮

松山 文彦

千代田 平河天満宮

植田 浩敏

中央 波除稻荷神社

鈴木 昭樹

金、壹拾萬圓也

港 乃木神社

高山 陽充

文京 小石川大神宮

佐佐木清有

文京 湯島天満宮

押見 守康

金、壹拾萬圓也

千代田 神田神社

清水 祥彦

台東 小野照崎神社

小野 貴嗣

千代田 靖國神社

大塚 海夫

港 愛宕神社

松岡由里子

文京 湯島天満宮

押見 友仁

港 御田八幡神社

水野 明彦

港 八幡神社

多田 光武

渋谷 渋谷氷川神社

田村 康雄

渋谷 明治神宮

九條 道成

中野 氷川神社

中田 昌之

渋谷 東郷神社

福田 勉

品川 居木神社

森田 義巳

杉 並大宮八幡宮

鎌田 紀彦

品川 旗岡八幡神社

松本 仁

杉 並井草八幡宮

宮崎 昌文

目黒 上目黒氷川神社

田中 芳明

杉 並馬橋稻荷神社

本橋 宣彦

大田 浅間神社

河合 玄紘

北多摩 大國魂神社

猿渡 昌盛

大田 雪ヶ谷八幡神社

北川 正訓

大田 多摩川浅間神社

北川 憲史

北 王子神社

八木 光重

品川 品川神社

小泉 勝俊

板橋 熊野神社

小泉 朋昭

品川 氷川神社

山口 直英

板橋 氷川神社

篠 直嗣

品川 戸越八幡神社

大石 定道

板橋 徳丸北野神社

大野 裕丈

品川 八幡神社

森田 一

練馬 石神井氷川神社

奥野 雅司

品川 天祖神社

齋藤 泰之

伊勢神社

提箸 照之

目黒 大鳥神社

堀江 久教

金、参萬圓也

千代田 神田神社

森田 光教

大田 新田神社

品川 宗久

文京 湯島天満宮

佐々木東行

大田 穴守稻荷神社

森下 雅仁

文京 湯島天満宮

押見 匡純

大田 多摩川浅間神社

北川 貴史

台東 鳥越神社

鏑木 啓磨

墨田 白鬚神社

今井 達

台東 五條天神社

瀬川 真澄

江東 東大島神社

内海 壽之

台東 銀杏岡八幡神社

渡邊 和壽

足立 千住神社

大塚圭一郎

港 日比谷神社

三宅 德行

足立 江北氷川神社

八木健一郎

港 春日神社

三笠 貴春

足立 大鷲神社

濱中 伸洋

港 高輪神社

瀧 實

足立 鷲神社

石倉 義康

港 天祖神社

青木 大明

葛飾 葛西神社

香山 伸一

中野 沼袋氷川神社

小俣 章

豊島 大鳥神社

清水 雄介

世田谷 世田谷八幡宮

命史

中野 北野神社

半田 裕明

世田谷 世田谷八幡宮

命弘

杉 並井草八幡宮

宮崎 真一

江東 亀戸香取神社

香取 邦彦

杉 並荻窪八幡神社

小俣 宗昭

江東 富岡八幡宮

丸山 聡一

杉 並神明宮

齋藤 博明

板橋 熊野神社

八木 光重

品川 品川神社

小泉 勝俊

板橋 氷川神社

篠 直嗣

品川 戸越八幡神社

大石 定道

板橋 徳丸北野神社

大野 裕丈

品川 八幡神社

森田 一

練馬 石神井氷川神社

奥野 雅司

品川 天祖神社

齋藤 泰之

伊勢神社

提箸 照之

目黒 大鳥神社

堀江 久教

伊勢神社

提箸 照之

目黒 中目黒八幡神社

岡部佐樹子

伊勢神社

提箸 照之

目黒 中目黒八幡神社

岡部佐樹子

金、参萬圓也

千代田 神田神社

森田 光教

大田 新田神社

品川 宗久

文京 湯島天満宮

佐々木東行

大田 穴守稻荷神社

森下 雅仁

文京 湯島天満宮

押見 匡純

大田 多摩川浅間神社

北川 貴史

台東 鳥越神社

鏑木 啓磨

墨田 白鬚神社

今井 達

台東 五條天神社

瀬川 真澄

江東 東大島神社

内海 壽之

台東 銀杏岡八幡神社

渡邊 和壽

足立 千住神社

大塚圭一郎

港 日比谷神社

三宅 德行

足立 江北氷川神社

八木健一郎

港 春日神社

三笠 貴春

足立 大鷲神社

濱中 伸洋

港 高輪神社

瀧 實

足立 鷲神社

石倉 義康

港 天祖神社

青木 大明

葛飾 葛西神社

香山 伸一

中野 沼袋氷川神社

小俣 章

豊島 大鳥神社

清水 雄介

北	七社神社	和田	隆之	西多摩	正一位若走神社	宮澤	正夫	台東	鷲神社	河野	徳人	渋谷	青山熊野神社	椎名	道子	
板橋	稻荷神社	鳥海	普意	南多摩	町田天満宮	池田	泉	台東	小野照崎神社	小野	亮貴	渋谷	北谷稻荷神社	杉本	有香	
荒川	素盞雄神社	能圓坊	明彦	南多摩	穴澤天神社	山本	頼信	台東	五條天神社	始澤	澄江	中野	多田神社	細野	政和	
荒川	尾久八幡神社	村瀬	章一	北多摩	八幡神社	押本	博久	台東	須賀神社	杉山	高根	中野	八幡神社	関	宮雄	
西多摩	御嶽神社	宮川	直明	金、壹萬伍仟圓也				台東	本社三島神社	水野	泰志	中野	神明氷川神社	眞壁	惠龍	
西多摩	幸神社	宮田	健二	金、壹萬圓也				台東	元三島神社	河野	通具	中野	本郷氷川神社	中田	憲文	
南多摩	住吉神社	琴平神社	合社	港	廣尾稻荷神社	山口	耕司	台東	矢先稻荷神社	高島	久亘	中野	江古田氷川神社	篠	正太郎	
北多摩	熊野宮	宮崎	久嗣	西多摩	二宮神社	河野	洋	台東	今戸神社	市野	智絵	杉	並	永福稻荷神社	齋藤	彰男
北多摩	日枝神社	星野	誠	金、壹萬圓也				台東	秋葉神社	沼部	文彰	杉	並	荻窪白山神社	小俣	隼臣
北多摩	東伏見稻荷神社	葦津	元成	千代田	築土神社	多湖	功	港	烏森神社	山田	邦夫	杉	並	高円寺氷川神社	紺谷	大進
北多摩	氷川神社	栗原	健人	千代田	三崎稻荷神社	山崎	寛	港	塩竈神社	遠藤	健太郎	杉	並	熊野神社	五十嵐	正明
金、貳萬圓也				千代田	柳森神社	柳原	正秀	港	芝大神宮	勝田	博之	杉	並	天沼八幡神社	鶴岡	隆志
台東	上野東照宮	嵯峨	兵太	文	京根津神社	内海	康人	港	稻荷神社	勝田	勇	杉	並	天祖神社	宮澤	良和
世田谷	瀬田玉川神社	高橋	邦秀	文	京簾川神社	毛利	雅裕	港	愛宕神社	半田	りえ子	杉	並	田端神社	中神	孝夫
墨田	三輪里稻荷神社	花見	桂子	文	京天祖神社	福田	喜一	港	熊野神社	佐々木	満	品	川	貴船神社	小山	快哉
墨田	隅田稻荷神社	吉川	宜範	文	京北野神社	春日	規子	港	十番稻荷神社	針ヶ谷	直仁	品	川	雉子神社	山口	直和
江東	天祖神社	田中	寛之	文	京櫻木神社	岩崎	葵	港	赤坂氷川神社	恵川	義昭	品	川	鹿嶋神社	大野	素道
江東	宇迦八幡宮	菅原	直幸	文	京吹上稻荷神社	蠣崎	千恵子	渋谷	金王八幡宮	比留間	広明	品	川	天祖・諏訪神社	大野	二良
江東	亀戸浅間神社	御田村	俊一	文	京三河稻荷神社	横山	道輝	渋谷	代々木八幡宮	平岩	小枝	品	川	三谷八幡神社	大竹	久雄
新宿	花園神社	片山	裕司	文	京稻荷神社	筒井	貴志	渋谷	鳩森八幡神社	平野	俊二	品	川	天祖神社	福岡	三朗
板橋	氷川神社	榎本	富男	台東	鷲神社	河野	元俊	渋谷	氷川神社	宮本	徹	品	川	荏原金刀比羅神社	青木	義雄

目黒碑文谷八幡宮	恵川	浩之	墨田香取神社	松原康行	新宿下落合氷川神社	守谷和穂	板橋熊野神社	中島敬史
目黒中目黒八幡神社	岡部定征	墨田香取神社	松原利治	新宿下落合氷川神社	守谷徳之	板橋熊野神社	石川明彦	
目黒稲荷神社	田中宏枝	墨田隅田川神社	井狩司	新宿水稻荷神社	齋藤浩孝	板橋熊野神社	小泉泰司	
目黒氷川神社	新倉隆	墨田飛木稲荷神社	千葉元	新宿諏訪神社	村岡賢治	板橋熊野神社	小泉木綿子	
目黒熊野神社	新倉圭子	墨田飛木稲荷神社	千葉学	新宿赤城神社	風山栄雄	板橋天祖神社	小林美香	
大田熊野神社	井上高行	墨田高木神社	山崎紀美代	新宿須賀神社	尾方靖典	板橋徳丸北野神社	大野政時	
大田大森神社	大森勝國	墨田三輪里稲荷神社	松林明弘	新宿御霊神社	磯部豊三郎	練馬土支田八幡宮	三木一能	
大田穴守稲荷神社	井上直洋	墨田野見宿禰神社	兼出雲大社	新宿皆中稲荷神社	鶴田早苗	荒川諏方神社	日暮壮史	
大田羽田神社	橋爪実樹尚	東京分祠	千家活彦	新宿月見岡八幡神社	守谷世志夫	荒川石浜神社	小西啓文	
大田千束八幡神社	恵良彰紀	墨田白髭神社	椎名香都夫	新宿西向天神社	渡辺生智郎	西多摩鹿島玉川神社	玉川和貴	
世田谷菅原神社	荒堀文孝	墨田初音森神社	田部裕子	新宿稲荷鬼王神社	大久保直倫	西多摩玉川神社	宮澤史彦	
世田谷東玉川神社	関根教弘	墨田五柱稲荷神社	小宮山一夫	新宿成子天神社	鎌田珠理	西多摩八雲神社	杉村秀夫	
世田谷北澤八幡神社	矢島嗣久	江東猿江神社	神保恵一	豊島天祖神社	高島俊紀	西多摩三島神社	宮本信行	
世田谷松陰神社	齋藤憲輝	江東富賀岡八幡宮	荒井秀樹	豊島長崎神社	田中正浩	西多摩大嶽神社	吉野高明	
世田谷勝利八幡神社	中村善隆	江東洲崎神社	塩澤光行	豊島氷川神社	山内学	西多摩春日神社	吉野直樹	
世田谷氷川神社	野澤宙律	足立梅田神明宮	野村明生	豊島稲荷神社	鏑木俊	西多摩伊勢社	峯岸正則	
世田谷池尻稲荷神社	西山和範	足立大鷲神社	濱中厚生	豊島御嶽神社	早山彰	西多摩稲足神社	小川修	
世田谷深澤神社	新倉令子	足立西之宮稲荷神社	唐松貴文	豊島氷川神社	筒井昌和	南多摩八幡八雲神社	柚井正道	
世田谷宇佐神社	根本博	葛飾天祖神社	坂本泰世	豊島大國神社	大島資生	南多摩子安神社	松宮兼房	
世田谷天祖神社	中原正明	葛飾天祖神社	宮川祐一	豊島染井稲荷神社	瀬川昌之	南多摩多賀神社	河村大樹	
世田谷太子堂八幡神社	手塚整輝	葛飾熊野神社	千島俊司	豊島菅原神社	保坂徳右衛門	南多摩産千代稲荷神社	小泉宜久	
世田谷代田八幡神社	額賀政行	新宿穴八幡宮	齋藤成彰	板橋氷川神社	豊田賢二	南多摩母智丘神社	黒木亀	
墨田牛嶋神社	春田知徳	新宿十二社熊野神社	伊藤綾野	板橋氷川神社	鈴木紀彦	南多摩母智丘神社	黒木宣寿	

南多摩 菅原神社	池田 豊彦	北多摩 伊豆美神社	小町 守	千代田 神田神社	福島 実哲	港 乃木神社	西田日向子
南多摩 熊野神社	池田 貞明	島 嶼 大宮神社	吉田 龍一	千代田 神田神社	安藤 和貴	港 乃木神社	中江 元治
南多摩 白山神社	小松 春義	島 嶼 富賀神社	壬生 貴則	千代田 神田神社	伊豆田ちえり	渋谷 東郷神社	森 壮弘
南多摩 稲荷社	梶原 正嗣	島 嶼 小笠原神社	上口 清美	千代田 神田神社	松下 瑛佑	渋谷 東郷神社	矢田 崇
南多摩 白山神社	小泉潤一郎			千代田 神田神社	小山 美咲	渋谷 東郷神社	眞野 伸也
南多摩 八坂神社	土淵眞佐子	金、伍阡圓也		千代田 三崎稻荷神社	山崎 充彦	渋谷 金王八幡宮	石川 明寿
南多摩 諏訪神社	中村武比古			台東 鳥越神社	鏑木 寛	渋谷 金王八幡宮	吉田 麻那
南多摩 青渭神社	福島 信雄	千代田 日枝神社	高原 聖司	台東 下谷神社	西野 祥子	渋谷 金王八幡宮	黒田 裕香
北多摩 熊野神社	松本 成美	千代田 日枝神社	土田 幸大	台東 下谷神社	清水 亮	渋谷 金王八幡宮	宅野 晃裕
北多摩 押立神社	菊地 茂	千代田 日枝神社	内田 博之	台東 五條天神社	瀬川 政伸	渋谷 渋谷氷川神社	田村 康陽
北多摩 神明社	池谷 憲治	千代田 日枝神社	手塚 和記	台東 三島神社	河野 正枝	渋谷 渋谷氷川神社	乙黒 美緒
北多摩 谷保天満宮	津戸 弘樹	千代田 日枝神社	松橋 裕晃	港 金刀比羅宮	細井 大輔	渋谷 鳩森八幡神社	平野 英二
北多摩 熊野神社	都築 孝也	千代田 日枝神社	高野 大樹	港 金刀比羅宮	滑川 裕紀	渋谷 青山熊野神社	椎名 勇夫
北多摩 阿豆佐味天神社	宮崎 洋	千代田 日枝神社	中島大二郎	港 金刀比羅宮	濱口 慧	杉 並 天祖神社	宮澤 和希
北多摩 日吉神社	橋本 昇	千代田 日枝神社	前川 大成	港 金刀比羅宮	白瀬 義久	杉 並 田端神社	中神加奈子
北多摩 神明神社	久保 昇	千代田 日枝神社	金鑽 和樹	港 金刀比羅宮	加藤 慈英	杉 並 天沼熊野神社	渡辺 健介
北多摩 神明社	荒張 直久	千代田 東京大神宮	松山 幾一	港 芝大神宮	柏 貴夫	品川 雉子神社	山口 厚子
北多摩 豊鹿嶋神社	石井 裕光	千代田 神田神社	佐藤美姫子	港 十番稻荷神社	吉田 貴喜	品川 居木神社	森田 義崇
北多摩 小平神明宮	宮崎 和美	千代田 神田神社	春日 貴仁	港 十番稻荷神社	渡瀬 恭孝	品川 天祖・諏方神社	大野 貴之
北多摩 日枝神社	山口 鴻卓	千代田 神田神社	高島 瑞暉	港 廣尾稻荷神社	山口 貴臣	目黒 碑文谷八幡宮	恵川 剛
北多摩 牟礼神明社	西野 雅秀	千代田 神田神社	吉井 良一	港 赤坂氷川神社	岡本 幸祐	目黒 中目黒八幡神社	岡部亜樹子
北多摩 布多天神社	野澤康次郎	千代田 神田神社	和田 正弥	港 赤坂氷川神社	神屋宗太郎	世田谷 北澤八幡神社	矢島八寿徳
北多摩 國領神社	野澤 靖明	千代田 神田神社	松本 和峰	港 赤坂氷川神社	宇賀神泰典	世田谷 松陰神社	吉本 宙矢

世田谷 松陰神社	塩村 優二郎	板 橋 小易神社	長岡 良親
世田谷 六所神社	瀧 誠幸	板 橋 天祖神社	中村 賢二
世田谷 勝利八幡神社	中村 善裕	板 橋 氷川神社	篠 嘉純
世田谷 天祖神社	中原 正道	荒 川 尾久八幡神社	村瀬 理志
墨 田 牛嶋神社	春田 昇三郎	北多摩 八幡神社	内堀 吉磨
墨 田 白鬚神社	今井 俊		
墨 田 高木神社	田中 康雅		
墨 田 初音森神社	田部 和俊		
江 東 亀戸天神社	大鳥居 武司		
江 東 亀戸天神社	大鳥居 瑛子		
江 東 亀戸天神社	小白川 宮貴		
江 東 亀戸天神社	富田 剛弘		
江 東 亀戸天神社	神田 達也		
江 東 深川神明宮	佐和橋 佳利菜		
江 東 猿江神社	神保 宗明		
江 東 猿江神社	神保 有里		
江 東 洲崎神社	工藤 忠之		
新 宿 穴八幡宮	齋藤 成惟		
新 宿 穴八幡宮	石井 朗英		
新 宿 穴八幡宮	佐々木 満		
新 宿 穴八幡宮	柳田 守章		
新 宿 穴八幡宮	鳥前 永祐		
板 橋 氷川神社	鈴木 斎彦		

ご協賛頂いた当時の役職
表記にて記載しております。

役員一同

金、四拾四萬圓也

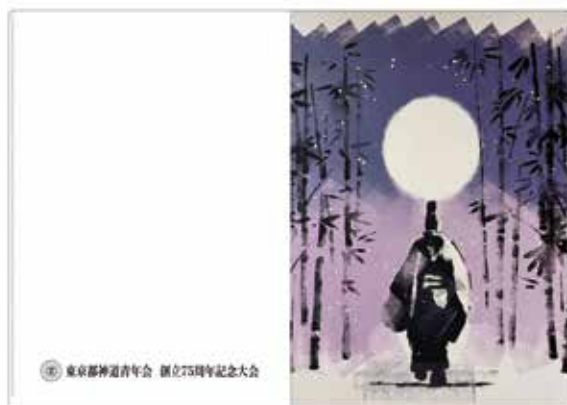
件数 三百九十九件

総額 七百拾壹萬伍仟圓

ご協賛いただき
ありがとうございました

協賛者への記念品

創立七十五年記念大会の記念式典に先立ち、
オープニングアクトにて、画家・さとうたけし氏による
ローラーペイントで描かれた即興画のクリアファイル



令和五年・六年度 役員・監事・相談役

会長	篠 泰比呂	渉外部 部長	齋藤 剛
副会長	内海 通人	副部長	田村 康晃
議長	服部 佑子	幹事	佐々木 義修
監事	森田 尚久		
	大島居 良人	広報部 部長	本橋 知子
	山口 祐樹	副部長	藤ヶ崎 智栄
	平岡 好仁	幹事	田部 景子
総務部 部長	高島 俊亮	事業部 部長	渡邊 喬弘
会計 部長	渡邊 輝比古	副部長	園田 治穂
庶務	榎本 光孝	幹事	篠原 萌花
総務	鶴岡 慶子	相談役	土師 幸士
教化	田村 仁志		森田 光教
渉外	千葉 布子		青木 大明
広報	船田 睦子		提箸 照之
事業	山中 聡一郎		松岡 由里子
教養部 部長	佐和橋 義之		北川 貴史
副部長	豊田 芳亮		大塚 圭一郎
幹事	椿 拓磨		森下 雅仁
教化部 部長	毛利 勇人		田中 芳明
副部長	佐佐木 照展		押見 匡純
幹事	牧田 笙		三笠 貴春
			清水 雄介
			岡部 佐樹子
			大野 裕丈
			宮崎 真一
			瀬川 真澄



周年記念事業 総括

創立七十五周年記念事業実行委員会

委員長 内海 通 人

まずいつて都内神職の皆様、先輩諸兄におかれましては、当会創立七十五周年各種記念事業にご理解ご協力賜りましたこと、衷心より御礼申し上げます。また会員各位におかれましては、社務お忙しい中ご参加ご協力頂き、誠に有難うございます。お陰をもちまして無事に当初の計画通り各種記念事業を完遂することができました。

さて、当会は戦後の混乱が続く昭和二十四年に「自己研鑽と神社神道の興隆を期す」という目標を掲げ、東京都神道青年協議会として発足してより、先輩諸兄が長年に亘たり斯界の尖兵として活動

を続けてこられ、令和六年に創立七十五周年という節目を迎えることができました。この七十五年たった現在でも当時の混乱とは異なりますが、多くの変化や脅威に晒されています。現在の都神青は、これらの脅威や問題に真剣に向き

合うことが望まれます。当会は国体の護持と日本文化継承の担い手として、先輩諸兄より精神を受け継ぎ、今日まで伝統を紡いでまいりました。その想いから「歴史を振り返り、次代へ想いを引き継ぎ、時代に即した行動を」というスローガンを下にこの難局にあっては、日本人そして青年神職としての矜持を持って、今に向き合い活動をするためこの節目に向き合うという想いで周年事業を進めてまいりました。

この五年を振り返りますと前回の七十周年最後より新型コロナウイルス流行によって社会環境が一変することとなり、通常事業は元より参集しての事業に制約がかかるという事態が起こる日々でした。やっと制約が取れ、まずは、通常事業の再開と運営、会員とのコミュニケーションといったことが先決と考えて令和五年度は歩

み、令和六年度の周年期に備えていきました。

そうして、記念大会を十月二十八日、東京ドームホテルに於いて迎え、来賓・都神社庁関係各位、神青協関係、会員合わせ二百五十名を超える参加者により盛会裡に執り行いました。この日を迎えるに辺り会員一丸となって様々な準備に努め、多くの会員の力を結集した大会となりました。

各種記念事業のことを振り返りますと神宮奉告参拝では、神宮並びに熱田神宮に参拝し、大前にて当会創立七十五周年の佳節を奉告すると共に、各記念事業の無事完遂をお誓い申し上げました。また何十年ぶりに神宮神青と盃を酌み交わしました。

都神青ホームページ更新・教化資材作成などのコロナ禍より本格的に始まったSNSを使った社務に役立つ資材の配信や、都神青としての活動を幅広く知って貰う為に、ホームページを発信しやすいものへ新たに更新しました。

勤労奉仕は、コロナ禍明けということもあり多数の団体から応募

があったため抽選となりました。残念ながら皇居勤労奉仕は叶わなかった結果となりましたが、武蔵陵墓地での各陵墓参拝・勤労奉仕を行い例年と違う新たな経験をさせて頂きました。

神道行法錬成研修会では、夜間講座として神社巡拝家の佐々木優太先生より「佐々木優太が考える御師としての働き〱御師活〱」と題してご講義頂きました。

なつやすみ子供神社体験学習では、五年ぶりに宿泊を伴う従来の形式へと戻し、「感謝〱ありがと〱の気持ちを大切に〱」を主題に掲げ、日本文化の中でも特に尊重している「感謝の心を表す行為〱について子供たちに学んで体験して貰いました。

都内戦災震災殉難者慰霊祭並びに靖國神社参拝では、都神青会員の八名が祭員として奉仕し、四名が「光舞」を奉納。東京都慰霊協会が発刊した、『忘れない。伝えたい。関東大震災と大空襲』という冊子を百部用意し、戦争の恐ろしさや命の尊さを改めて思い出しもらえるよう、参列者に配布し

ました。

TSS懇親事業は、穴守稲荷神社・JALスカイミュージアム・羽田空港ギャラクシーホールにて開催し、家族のほか福島神青・神奈川神青もお招きし楽しい事業となりました。

御朱印展―東京の神社御朱印大集結―は、銀座アポロ昭和館YOHAKUにて開催いたしました。十二月という忙しい時期ではありましたが、多くの会員又氏青の皆様にご助勢頂き、開催期間中は大変多くの方が来場し東京の御朱印や神社を知って貰えた事業となりました。

国内慰霊祭は、先の大戦において都内激戦地でありました硫黄島はじめ広くは南方戦線にてその身を捧げられた英霊、そして戦禍により尊い命を失われた戦没者の御霊に対し慰霊の誠を捧げると共に、数多くの戦跡を自らの目で見ることで当時を思いを馳せて、戦争の事実を風化させることなく、御國の安泰と世界の平和推進をお誓い申し上げるべく、国内戦地・防衛拠点「八丈島」にて斎行しま

した。当日は連日の雨の為、八丈ビューホテルにての慰霊祭斎行とはなりましたが、予定していた行程は殆ど行うことができ、有意義な二日間となりました。

篠会長期に準備から本番まで二年間をかけた多くの方々にご協力ご助言頂き無事に終えることができました。改めて感謝申し上げます。これから我々は、八十周年に向けてまた東京都神道青年会の歴史を積み重ねていかねばなりません。皆様のご協力ご支援の下、一歩ずつしっかりと積み重ねてまいりたく思いますので引き続きお願い申し上げます。

編集委員（東京都神道青年会広報部）

本橋	知子	広報部 部長	馬橋稲荷神社	権禰宜
藤ヶ崎	智栄	広報部 副部長	浅草神社	権禰宜
田部	景子	広報部 幹事	初音森神社	権禰宜
西山	直希	広報部 部員	池尻稲荷神社	権禰宜
大鳥居	瑛子	広報部 部員	亀戸天神社	権禰宜
細野	喜久	広報部 部員	多田神社	権禰宜
宮崎	仁嗣	広報部 部員	熊野宮	権禰宜
鈴木	紀彦	広報部 部員	氷川神社	宮 司
濱中	貴文	広報部 部員	大鷲神社	権禰宜
賀陽	智之	広報部 部員	田無神社	宮 司
高橋	典子	広報部 部員	馬橋稲荷神社	権禰宜
佐和橋	佳利菜	広報部 部員	深川神明宮	権禰宜
瀧	孝平	広報部 部員	高輪神社	権禰宜
宇賀神	泰典	広報部 部員	赤坂氷川神社	権禰宜
金子	樹代子	広報部 部員	馬橋稲荷神社	権禰宜
春田	華奈	広報部 部員	牛嶋神社	権禰宜
野中	公樹	広報部 部員	東京都神社庁	録 事
吉田	麻那	広報部 部員	金王八幡宮	権禰宜
瀧	亮子	広報部 部員	高輪神社	権禰宜
服部	佑子	広報部担当副会長	平河天満宮	権 宜
山口	祐樹	広報部担当監事	雉子神社	権 宜
船田	睦子	広報部担当庶務	穂田神社	宮 司

※本文中の氏名・役職等は記事当時のものです。

表紙題字

第三代東京都神社庁長

大鳥居吾朗先生

八桑枝シンボルマーク



画家・さとうたけし氏

周年記念大会での即興アート画

創立七十五周年ロゴマーク

奥付

令和七年三月三十一日 発行

東京都神道青年会

東京都港区元赤坂二―二―三

東京都神社庁内

電話三四〇四―六五二五(代)

